

From 5 5つのセクションから

【NPO法人ぱれっと <http://www.npo-palette.or.jp>】

ぱれっとインターナショナル・ジャパン
～法人ホームページ内にて公開中～

～3年ぶりのスリランカ～

2009年5月、25年にわたって繰り返されてきた内戦が終結し、バンドラナヤカ国際空港の警備は以前に比べかなり柔軟になっていました。北部への観光も容易になり、多くの日本人ツアー客が入国審査を受けていました。今までなかったビザ申請が今年1月から必要になりました。スリランカが平和な国に変わった象徴かもしれません。2009年8月、スリランカ Palette が閉鎖され、そこで働いていた通所員やスタッフは、スリランカ大手の菓子メーカーが運営する特例子会社に雇用されました。Palette 閉鎖後、NGO 登録抹消手続きが遅々として進んでいません。内戦下の時代に、NGO を隠れ蓑にし戦争に加担していた悪質な組織を摘発する目的で、NGO 管轄が社会福祉省から防衛省に変わったのが原因です。Palette チェアマンだったワルナクラスーリヤ氏と面会をし、

その後の進捗状況を確認しました。Palette 初の国際インターンに参加した田口雄一氏（現ぱれっと理事）も、今回の出張に同行し、ホームステイ受け入れ先の家族に、8年ぶりの再会を果たしました。Palette 開設当初お世話になったアーナンダ氏家族を昼食会に招き、昔話に花を咲かせました。 (そうま)



【元スタッフ トゥシャーリ家族】

たまり場ぱれっと

<http://www.npo-palette.or.jp/tamariba/>

～お寺で習字の会～

3月4日(日)白金高輪にあるお寺「明福寺」にて、習字の会を行ないました。お寺に到着後、まずは本堂にてお経を読み、仏教の教えを学びました。仏教の教えの中で「多様な生き方、人がいるが、最終的には皆同じ」「人それぞれ様々な色を持っているが、誰かの色になる必要はなくその人自身の色で輝くことが素晴らしい」という教えを教わり、人として大事なことを参加者皆で共有しました。その後、静かな緊張に包まれながら、習字を書きました。「春」をテーマにそれぞれ好きな文字を自由に書き、中には文字だけではなく絵も交えて「春」を表現している作品もあり、習字の概念にとらわれず、楽しく行ないました。普段はなかなかできない貴重な体験が出来た1日でした。 (そうき)

おかし屋ぱれっと<http://www.okashiya-palette.or.jp/>**～インフルエンザ対策～**

今年もインフルエンザウィルスが猛威をふるっています。インフルエンザの季節とおかし屋の繁忙期が重なる為、体調管理はしっかりしなければなりません。おかし屋では出来る範囲での徹底した予防対策をしています。毎年、インフルエンザが蔓延する前に予防接種を受けます。そして、出勤して一番に行なう事は手洗いとうがいです。メンバーの中には手洗いが苦手な人やうがいに慣れていない人もいますので、見守りながら入念に行なっています。さらに手洗い方法の写真を掲示して、洗い方が視覚的に分かるようにもしています。このような健康管理は仕事をする上でとても大切なことですので、今後も気を抜かず元気に出勤できるように対策を続けていきます！ (みうら)

スリランカ料理&BEER Palette<http://www.r-palette.com/>**～写真展～**

2月下旬から1週間、レストランにて、早稲田、立教、跡見女子、各大学合同のサークル、「トゥーバビアン」の皆さんによる、「スリランカ写真展」を開催しました。このサークルは毎年スリランカの孤児院を訪問し、写真を撮ったり、ワークショップを通して、子供たちとの交流をはかることを目的にしています。最終日となった3月3日には、活動報告会を開き、サークルの先輩達や、メンバーの親御さんも集まって小さいながらも熱のこもった会となりました。若い人達がこうした交流を通してスリランカに関心を持ってくれることは、私としても大変うれしく思います。まだ6年弱という若い団体。これからも頑張っ^て欲しいと思います。(みなみやま)

えびす・ぱれっとホーム

～法人ホームページ内にて公開中～

～避難訓練実施～

2月7日、9日避難訓練を行ないました。7日は地震を想定し、17:30より18:00の予定で、9日は火災を想定し、18:00より実施しました。両日とも怪我も無く無事に終了しましたが、地震発生時にテーブルの下に入る事を嫌がる利用者がいたり、火災訓練の際、入浴している利用者がいたりと予定外のことも起こりました。時間帯や緊急の利用者の有無等で避難誘導の方法が変わって来ます。今後の訓練では様々な場面を想定しながら行なっていくと言うことや、実際の災害時に想定外の事が起きても慌てない様、日頃の訓練を通して避難の手順や危険に対する認識を職員全員が共有することの必要性を、職員会議で確認しました。(ひろはし)